

令和2年度第1学期終業式 古居校長先生のお話し

今日は8月7日です。1学期終業式をこのような時期にするのは、教員になって30年以上になりますが初めてです。長い長い1学期でした。と言いたいところですが、実は、4月20日から5月25日まで臨時休校がありましたので、日数としては、決して長いわけではありません。むしろ短いはずです。

今日はリモートでの終業式ですが、3月の3学期終業式は校内放送で行いました。その時の私の話を振り返ってみると、こういう話でした。「今や全世界で30万人の人が新型コロナウイルス感染症に罹っています 云々」。2・3年生の人覚えていますか？あれから約4カ月が経ちました。今や、全世界で約1,800万人の人が罹っているとのことです。この感染スピードは、驚くべき速さです。日本も緊急事態宣言が発令され、「ステイホーム」が叫ばれ、国民が自粛生活を余儀なくされました。この成果か感染者も減少していき、緊急事態宣言も解除され、少しずつ元の生活に戻り始めたところ、7月に入って急激に感染が都会地を中心に全国へと広がってきています。もう、全国どこに居ても感染するリスクはあります。

これから夏休み、お盆を控え、例年とは違う夏といえども、それでも多くの人が移動します。8月19日の2学期始業式を無事に迎えるためにも、夏休み期間において、私たち教職員も含め、みなさん一人ひとりが感染リスクを避ける適切な行動が求められます。

さて、世間では、感染者への誹謗中傷が後を絶たないようです。また、新型コロナ関連に限らず、ネット上を中心に様々な誹謗中傷がおきています。

私達人間が使う言葉は、口からでるものと文字として使われるものがありますが、これは、たいへん便利なものです。

「言葉は人類が使う最高の薬だ」という言葉があります。例えば悩んでいる友達にかける励ましの言葉は、最高の薬となることでしょう。また、褒めたり、同意したりする言葉も最高の薬となります。

しかしながら、使い方を間違えると大変なことになります。先ほど話したネット上を中心とした誹謗中傷問題、また、日頃の会話の中でも相手を攻撃したり、傷つけたり、からかったりする言葉を発する人も残念ながらいます。

「刀で切った傷は薬をつければ治るけど、言葉で切った傷は、薬では治せない」と言われています。

どうか、今一度自らを省みてください。言葉を最高の薬となるような使い方を切に望みます。

先ほども言いましたが、誰しもが感染する可能性が大いにある状況下で、感染した人を責めても何ら意味のないことです。それよりも、みんなで助け合っこのコロナと戦っていく世の中にならなければと思います。

それでは、短くなった夏休みですが有意義に過ごしてください。

私から一つ宿題を出すとするならば、「8月19日には元気な姿で登校すること」です。8月19日の再会を楽しみにしています。